

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 3 年 9 月 3 日

氏 名 胡 云潼

所 属 大学経営・政策コース コース

学籍番号 23-207013

指導教員名 阿角 亜希子

1. 研究課題 中国における卓越研究拠点の形成事業について

2. 報告する学術活動の実施期間 令和 3 年 7 月 11 日 ~ 令和 3 年 8 月 20 日

3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 ☐DC1 ☐DC2 ☒採用無し

4. 学術活動

☒国外 ☐国内

☐①英語論文公表

☐②研究科教員の研究プロジェクト参加

☒③フィールドワーク

☐④国際会議 (☐研究発表 ☐運営補助 ☐出席のみ)

☐⑤研究会 (☐研究発表 ☐運営補助 ☐出席のみ)

☐⑥研究指導委託

☐⑦留学

☐⑧国際研修

☐⑨国際インターンシップ

☐⑩その他 ()

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	③
調査① 中国の卓越拠点(COE)形成事業について、中央政府及び地方による大学への投資事例と金額を調べた。計画は8月上旬に北京大学の中国教育財政研究所(CIEFR)を訪問することであるが、7月の末から中国で感染状況が厳しくなり、現地の防疫政策及び北京大学の入構管理が計画時と異なって、やむをえず訪問中止となった。その代わりに、同研究所の周森先生と連絡を取って、ビデオ通話によるインタビューを行いました。周先生の指示に従い、自分の参考用の諸書籍を購入し、教育部公式サイトも閲覧し、重要なデータを手に入れた。 上海にいる間は、週2回の頻度で上海図書館へ行き資料を探した。「211工程」及び「985工程」に関する書籍及び報道記事の他、事業採択校が出版する年鑑を閲覧し、事業展開に関する貴重な資料をコピーした。 調査② 中国の大学に着任した帰国ポストドクター及び教員を対象にプレインタビューを実施した。7月の末に東南大学が所在する南京市で本コースの卒業生である楊瞳と会い、彼女は東南大学の現任教員として本研究のインタビュー対象を紹介してくれた。インタビューは防疫政策の原因で対面でなくビデオ通話で行ったが、合わせて5人の研究者を対象として一人約1時間の対話を進んだ。 中国にいる間は、zoomを通じて指導教員と2回相談をし、研究指導を受けた。	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
- ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
- ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
- ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

自分の博士研究は中国における卓越研究拠点の形成を巡って展開している。卓越研究拠点、つまり「有力研究者が集まる国際級の研究開発センター(COE)」の形成事業は世界中の国々において国家政策の一環として展開されている。博士課程2年目の時点で、中国の卓越研究拠点の形成に相当する事業リスト及びその内容を整理したが、具体的な政府投資事例に関する資料は手元にないため、資料とデータの探し方及び出典について詳しい人に尋ねる必要がある。具体的に、80年代から今まで実施した高等教育重点作り事業について、中央政府及び地方政府が調達した経費の金額を調査することを通じて、中国における卓越研究拠点形成事業の政府投資強度を把握し、国の卓越拠点形成における地方が果たす役割も確認したいため、下記の調査リストを作った：

- ①国家重点学科作り事業経費の配分に関する政策及び事例
- ②「211工程」と「985工程」における中央政府の投資総額、地方政府の投資割合及び投資事例
- ③「双一流」事業における中央政府の投資総額及び各地方政府の投資事例

そのため、北京大学の中国教育財政研究所で勤める周森先生と連絡を取って、いろいろ研究について指導してくれた。教育財政研究所は中国の教育財政を研究する最も権威のある機関と言える。また、周先生は教育部が指定する財政配分の分析専門家である。彼女はすべての財務資料にアクセスできるが、教育部の規定によって、それは分析用のみとして、公開できないものである。そのため、一部の資料は大学の関係者に尋ねても手に入れづらいことがわかった。一方、すでに終了した「211工程」「985工程」について、教育部は事業をまとめるサイトを設けて、関連の書籍を出版したため、そこから豊かな資料を入手できる(①、②)。また、進展中の「双一流」事業について、具体的な政府投資金額(③)は公開していないが、地方政府が作った支援計画及び地域内の高等教育機関成長戦略は公開しているため、新しい視点から事業を認識することができる上記の情報はこれからの研究展開に重要なヒントを与えた。

自分は周先生からの指導を受け、上海図書館での資料調査を行った。各事業が始まった当時の年鑑及び報道記事を探すことは、研究資料を充実させることに大きな意義がある。今回、各大学が出版する年鑑を探した結果、「985工程」第1期における教育部及び地方政府がそれぞれ各大学に投資した金額(②)をすべて分かるようになった。このデータは将来の研究分析に重要な資料を提供できて、大きな収穫と言える。

そして、卓越研究拠点の形成には人材が必要で、特に、頭脳循環の観点から見ると、帰国人材は高度な科研能力を持つと同時に、海外研究者とのネットワークも構築しやすい。それらの人材の呼び戻すには、国は「千人計画」を含む人材戦略を立てた。一方、実際に帰国人材がどの大学へ着任するのは、地方政府と大学の人材奪い合い戦略に繋がっている。本研究は各大学及び大学所在地の人材招致戦略及び人材にとっての魅力度を考察したいが、それは就職先である大学の選択を経験した現役教員(あるいはポストドクター)に聞くのが一番直観的である。今回は中国国内の大学で着任した海外背景のある5人を対象にプレインタビューを実施した。具体的な分析はまだ進行中であるが、事例の比較を通じて、異なる地域及び大学の人材戦略を考察し、これからのインタビュー調査に経験を蓄積できる。